

## 平成 25 年度 第 1 回津山市行財政改革推進委員会 議事概要

日時：平成 25 年 5 月 16 日（木）13:30～15:10	場所：第 1 委員会室
<b>出席者</b> <委員>：鳥越良光会長、坂本道治副会長、藤本貴子委員、菅田茂委員、松本美幸委員、稲垣聡委員、多田憲一郎委員、小山京子委員、村岡政明委員、小西治之委員、古金広志委員 <津山市>：宮地市長、大下副市長、田村教育長、豊岡水道事業管理者、部長級職員（代理含む）事務局 <傍聴人>：1名	
<b>1. 開会</b> <b>2. 市長あいさつ</b> <b>3. 委員委嘱</b> <b>4. 役員選出</b> <b>5. 会長あいさつ</b> <b>6. 協議事項</b> <b>（1）津山市版事業仕分けについて</b> 事務局：全 3 回実施事業の予算・決算状況、また今後の事業仕分け実施について、手法を検討し平成 26 年度に再度実施予定と説明。 担当部局：第 2 回対象事業の実施状況について、各部局より説明。 委員：「陶芸施設管理運営事業」について、「民間が実施」の仕分け結果と異なり、市の方針は「要改善」とした理由は何か。 担当部局：事業の引受先がなく、いかに公費削減を行うかという視点に変更した。このため、受益者負担を増やすなどの対策を行った。今後新たな料金体制での収入の推移や施設の活用状況を分析し、平成 27 年度以降の運営体制については再検討する。 委員：さまざまな生涯学習内容がある中で、陶芸に公費を投入する理由を整理してほしい。 委員：一旦廃止とすると、再構築は困難であり、その方法も慎重に検討せねばならない。 委員：平成 27 年度以降についての再検討までに、さらに経費を削減するなど、民間で運営できるよう問題解決に努めてほしい。 <b>（2）第 9 次津山市行財政改革実行計画（前期）平成 24 年度実施状況について</b> 事務局：第 9 次行財政改革実行計画（前期）の平成 24 年度実施状況について、特に事業仕分け結果等を受け変更のあった計画及び実績を説明。また、目標額に対し効果額が大幅に上回ったこと、しかしその多くを人件費が占めることを述べた。 ～特に意見なし～ <b>（3）第 9 次津山市行財政改革実行計画（後期）について</b> 事務局：第 9 次行財政改革実行計画（後期）を、特に前期計画にない新規の取組について説明。また、巻末の資料により長期財政見通しによる行改必要効果額に対する本計画達成時の効果額推計を述べた。 委員：452 億円の行財政改革効果額が必要とあるが、何に対して必要なのか。 事務局：土地開発公社の解散や市町村合併後 10 年が経過することによる地方交付税の減額などが影響しており、津山市の財政健全化のために必要なものである。	

委員：人口減少など他にも考慮すべきマイナス要因もある。

事務局：土地開発公社から代物弁償された土地の早期売却など努力していかねばならない。

委員：大変な額だが、津山市がこの計画でどの程度踏み込んでいくかが重要である。

**(4) その他**

なし

**7. その他**

なし

**8. 閉会**